

**男女共同参画推進連携会議
企画委員会(8/7)議事概要**

○開会

岡田男女共同参画局長より挨拶。

○1. 今期の取組状況について

(1)若年層の性別役割意識チームの活動について

山田議員：

(資料2に基づき、チーム活動の進捗状況について説明。)

長島議員：現在検討しているアンケート調査について、対象を 18～25 歳の「未婚者」としているが、「未婚者」に特定しておくことによって設問の複雑化を防ぐためである。また該当する年齢層での既婚率を踏まえると、「既婚者」「未婚者」の比較検討に必要なサンプルの十分な確保が難しく、この点でも「未婚者」に特定した調査が望ましいと考える。

若年層のジェンダー意識形成は家庭の状況(所得階層)が影響するのではないかという仮説に沿って、設問 15 を設定している。

是枝議員：パートナーを持つことが前提の質問が多いと感じる。「将来のパートナーと家族を持ちたいと考えるか」という質問がひとつ必要ではないか。

山田議員：「パートナーを持つとすれば」と付け加えるなど表現の工夫をする。選択肢には「回答しない」があり、パートナーを持つ意識がない方も回答可能としている。

是枝議員：出生動向基本調査では未婚者の約 2 割がパートナーを持たない、結婚しないと回答している。パートナーを希望しない人がいることも前提に設問をつくるべき。

山田議員：設問を設けた場合も、いま用意している設問では「回答しない」を選ぶことになる。あくまで固定的な意識を探る調査であるため、「パートナーを持つとすれば」と想像させて回答してもらう。

井上議員：当方関係の企業団体でアンケート調査することもできるが、既婚者がほとんど。設問を再編すれば対象を拡大した調査にも活用できる。

塚越議員：今回の対象(若年層)よりも上の層については、先行調査がある。若年層に絞ったデータであることがこの調査の特徴になる。

小安議員：結婚を前提として見ると同時に、子育ても前提としているようにうかがえる。福山絵里子さんの著書「#生涯子供なし なぜ日本は世界一、子供を持たない人が多いのか」が参考になる。調査対象の年齢層にはこどもを持つことを想定していない場合があり得る。

長島議員：将来像がまだ明確でないと思われる未婚の若年層において、意識形成に影響を与えるのはまず保護者や身近な教育者であると仮定し、本人の意識のみではなく保護者についての設問を設定している。しかしながらミスリーディングが生じかねない聞き方になっている点は再考が必要。

山田議員：「こどもを持つと仮定した場合に」という前提を示す必要がある。こどもを持つことも想像していない段階で「子育てについてどう考えるか」を聞かれても、唐突感があるというのは、小安議員の指摘のとおり。

是枝議員：「～すべき」という選択肢は、社会全体について聞かれているのか、自分自身がどうしたいかを聞かれているのかが不明瞭になる。本人の意思を聞くのであれば「～したい」という選択肢が望ましい。

アキレス議長：「回答しない」と「わからない」の選択肢の違いと、この2つを分けて設ける意味はなにか。

山田議員：意思をもって「回答しない(したくない)」ものと、純粋に「考えていない、わからない」というもの。

是枝議員：「回答しない」「わからない」は一般的な調査に用いられる表現として違和感はない。

回答離脱を防ぐため「回答しない」を設けておくのはよいこと。一方で「回答したくない」はかなり強い意志になる。

さらに「その他」を設ける方法もあるが、自由記述とするか等は予算との兼ね合いとなる。

また選択肢の工夫だけでなく設問を「ご自身にとって一番近いものを選択してください。」とすることで、「その他」を設けずとも離脱を防ぐことはできる。

一定数のアンケート回収ができたとしても、途中離脱の多いサンプルでは調査としては薄くなってしまふ。途中離脱を防ぐことが重要。いずれにせよ調査票としてはもう一段階の修正が必要。

田瀬議員：18～25 歳は 1,000 万人、統計的に精度水準を達成するには 2,500 人の回答が必要。2,500 人超えていれば統計的に有意なサンプル数と言えるが、抽出方法や回収方法は十分に考慮する必要がある。

是枝議員：地域割付をしないと首都圏ばかり集まってしまう可能性があるため、地域ブロックでの割付は設けたほうがよい。年齢も各歳で割り付ける必要はないが、3 段階くらいの割付は設けるべき。

(2) 男女間賃金格差チームの活動について

只松議員：

(資料3に基づき、チーム活動の進捗状況について説明。)

是枝議員：業界チームとしては当初計画を修正しながら進めている。トップインタビューでは業界団体トップや団体での取組紹介なども候補と考えている。また実際にデータベースを用いて分析している事業者なども是非ヒアリングさせてもらいたいと考えている。

井上議員：建設業界、特に土木では地方でも経験者が優位。ジェンダーギャップを解消できる可能性を秘めている。

小安議員：地方・中小企業チームでも業界チームと連携しながらヒアリングを進めていく。

チームに参加くださっている団体も、女性比率のデータ提供やアンケート調査の実施など活動いただいている。

活動の仕上げとしてシンポジウムの開催を予定している。

現時点で見えている仮説だが、地域別詳細データがないことが実態課題である。地方の中小企業に対する男女間賃金格差是正を促進する策もない。また推進事例も少ないため、このチーム活動をとおして増やしていきたい。

中小企業家同友会が会員対象に実施したアンケート調査では、我々の仮説を裏付けるようなデータが集まっており、賃金格差の背景や課題が可視化できるものとして有効。

また企業のベストプラクティスとしては井上議員からも是非お話を聞きたい。

井上議員：小安議員から言及のあったアンケート結果は、まさに日頃お伝えしていることが可視化されたデータ。

職種や業務難易度の違いは、経験が重視される建設・製造業で起こり得る格差要因。未経験者に対する教育も必要になるが、そこでも理系か否かで違いが生じるため、理系の女性が少ないことも影響してくる。

地方において職業未経験の女性がどうすればキャリア醸成できるかという課題について、まずは DX の領域だが、最近着目しているのは脱酸素経営の支援。今後、有価証券報告書にサプライチェーンでの排出量の掲載が求められるが、地方では中間支援組織が必要。女性のリスキリングにより、新たな担い手をつくる可能性を探っている。

小安議員：解決策の方向性と具体策について 3 点。

- ① 地方中小企業経営者の意識改革が必要。大手企業ほどの意識は持てておらず啓発が必要と考えている。啓発ツールについて、国保議員と意見交換しながら検討している。例えば「女子大生が賃金格差のある企業には就職したくない」などのデータ。
- ② 特に地方の経営者には「女性側が働きたがらない」など、年収の壁を課題として持ち出す方が多い。この打開策を示す必要がある。
- ③ ジョブ創出とリスキリングにより稼ぐ力・スキルを身に着け男女間賃金格差を縮めていく。

国保議員：地方の女性の意識を可視化することが必要。パワフルなエビデンスをどうつくるかを現在検討中。

(3)全体会議の議事次第について

事務局：

（資料4に基づき、全体会議の骨子及びディスカッションテーマ案について説明。）

是枝議員：グループディスカッションのテーマは骨太の4つの柱だと抽象度が高い。今期のチーム活動テーマに沿った2つのテーブルを最低でも設けるべきだと考える。

山田議員：グループディスカッションの時間が 1 時間弱だと自己紹介だけでかなり時間を消費してしまう。オプション的なテーマを置いてもよいが、テーマを絞っておくのがよい。

アキレス議長：大きな柱は骨太にするとしても、もっと具体的に議論できるようなテーマを用意する必要がある。

井上議員：発表も含めて 1 時間だと、実際にディスカッションできる時間はもっと少ない。

アキレス議長：会議全体を 2 時間ではなく 2 時間半にして、ディスカッションの時間を十分とりたい。

小安議員：自己紹介は資料化して事前に配布、原則資料を見ていただくこととして当日時間をとりすぎない工夫をしてはどうか。時間制限をきちんと設けるために進行役がベルを使うのも有効。

長島議員：1 時間のディスカッションは間延びしたり、議論がループしてしまう場面をよく見る。議論しやすいようにできるだけテーマを具体的にしておくのと同時に、話し合ってもらいたい事項を出しておくのがよい。2024 年版の骨太をテーマとするのもよいが、全体会議を開催する 11 月には年度が既に半分経過している。来年以降の 6 次計画に向けた意見出しのほうが議論しやすいのではないか。

是枝議員：賃金格差チームとしては、自団体の取組紹介によってお互いに気付きを与えたい。事前質問で賃金格差について取り組んでいること、課題としていることを確認しておき、ディスカッションの場で披露し意見交換する形式がよい。

アキレス議長：事前アンケートは必要。取組の状況を実態把握し、回答結果をある程度まとめ、会議当日に共有できるのが理想。

塚越議員：コロナ以前には、事前アンケートで確認した取組の進捗具合によってグルーピングしていた。取組の進んでいる団体とそうでない団体が混在するグループよりも、議論しやすい。

アキレス議長：5 年ぶりの対面開催で会議終了後の意見交換会での交流も期待している。意見交換会も 1 時間程度確保できるよう事務局にお願いしたい。

○閉会

以上